

アメリカにおける外国人の生活

～ 組織に所属しない外国人として感じたこと～

2003年7月1日

藤原清明

目次

アメリカ、DC周辺における「外国人」(マクロ指標)

個人的体験例

- ・アメリカでのステータス
- ・身分証明の難しさ
- ・金融機関(クレジットカード)
- ・教育
- ・医療
- ・税金
- ・職業
- ・公的機関における体験
- ・コミュニティー
- ・内なる外国の存在

政治的課題

- ・移民、不法入国者とSeptember 11
- ・マイノリティーへのアピール
- ・2つの公用語
- ・医療保険

アメリカ、DC周辺における「外国人」(マクロ指標)

- ヒスパニックが最大のMinorityに

アメリカ全体(2001年)

白人	68.9%
黒人	12.7%
ヒスパニック	13.0%
アジア人	3.9%

外国生まれ

母国語が英語以外

が増加

ワシントンDC地域

	外国生まれ	母国語が英語以外
1990年	11%	14%
2000年	16%	20%

ヒスパニック増 = 言語の問題

- 家庭で英語を話していない人口割合
- ヒスパニック系人口割合

両者の間の相関係数は0.900

前者のうち約4分の1は英語を話せない

個人的体験例-アメリカでのステータス

VISA H1B (就労ビザ)

- 
- ・雇用主 Employee Benefit Research Institute
 - ・雇用主からの給与支払はなし
 - ・所得税等の源泉徴収、所得保証、身分保証はなし

公的な手続き等は自力でやるしかない状況

個人的体験例-身分証明の難しさ

SSN (Social Security Number) の取得は容易だが身分証明としては不十分

日本国パスポートはあくまで補助材料



身分証明の出発点は、居住証明 (= 賃貸契約書)



銀行口座の開設



運転免許証の取得

州政府が発行した「顔写真 + 住所の証明」となるため全米で万能

個人的体験例-金融機関(クレジットカード)

銀行口座開設 (Citibankの場合)

1回目: パスポートだけを持参して拒否される

2回目: パスポート + 賃貸契約書でも不十分とされる

「他に身分証明できるものはないか」と問われて、東京のCitibankのATMカードを示したところ、先方は満足



とにかく複数の他人に身分保証してもらいたい

アメリカ人ならクレジットカードでOK (アメリカでの履歴が必要)

個人的体験例-教育 (1)

Montgomery County (MD) の場合

International Student Admissions Office (ISAO)

外国人が公立校に入学を希望する場合、ISAOが適性を判断したうえで、個別校への編入を指示する

(ISAOには日本語のパンフレットあり)

English for Speakers of Other Language (ESOL)

公立校、図書館、コミュニティ・センター等にある外国人向け英語教育プログラム

公立校には、ESOL専任の教師が配属されている

教会等でも同様のプログラムがある

個人的体験例-教育 (2)

Bethesda Elementary School (Montgomery County)の場合

English for Speakers of Other Language (ESOL)

専任教師・専用教室

通常授業時間中に各クラスから集散

アメリカの生活習慣、歴史を題材とすることが多い

全校的イベント(父母も参加)

International Night

Music Concert (世界各地の音楽をテーマ)

ESOL Night

Originは50カ国(含む移民、赴任)

スペイン語によるNewsletter発行

個人的体験例-教育 (3)

Montgomery Collegeの場合

Community College

外国人向け英語研修コース

その他の学科でも外国人を多数受け入れ

日本と同大学の間を定期的に往復して履修単位を
取得している学生あり

個人的体験例-医療

予防接種のスケジュール

病名、部位の単語

総合病院と診療所の関係

医療機関と保険会社の関係

保険プラン

個人的体験例-税金

本人 (H1B) 就労ビザ → SSN取得

妻子 (H4) 就労不可 → ITIN

(Individual Taxpayer Identification Number)

ITINは身分証明としてはほとんど無効

納税申告の際に必要なのみ

個人的体験例-職 業

(あくまで印象の域を出ないが)

中国系が経営する飲食店多い

ヒスパニックは厨房内

ファストフードのカウンターには黒人

モーター経営にインド系多い

3K職場にヒスパニック多い

ドライバー、警備員に黒人多い

個人的体験例-公的機関における体験

Dual Sign – Dual Language

Social Security Administration

Internal Revenue Service

International Student Admissions Office

Motor Vehicle Administration (MVA)

個人的体験例-コミュニティー

コミュニティーで不便を感じた経験なし

Website、E-mail等による情報取得が容易なため
地域により人種構成の違いあり

Boy scout活動には、暗黙の了解・ルールのようなものを感じる 多少抵抗感あり

個人的体験例-内なる外国の存在

Lancaster County – Pennsylvania Dutch (Amish)

- ・外界との接触を極端に制限
- ・教育も8年間のみ



義務教育は通常9年

宗教上、信条による制限は認める(判決済み)

政治的課題

(1)移民、不法入国者とSeptember 11

基本的には移民受入の国

September 11以降、入国審査が厳格化

Driver's license取得の際の本人確認厳しく

不法入国者は主にメキシコから(300～500万人)

不法入国者への法的地位の付与(米墨協議)

(2)マイノリティーへのアピール

共和党、民主党ともヒスパニックへアピール
特に中間選挙、知事選などでは露骨

例1) Maryland州知事選挙(2002年)

Kathleen Kennedy Townsend(D)元副知事の選挙公約

- ・大人向けESOLの拡充
- ・Minorityが経営するビジネスを支援
- ・英語を公用語と定める州法案に拒否権

例2) G. W. Bushの側近

Texas出身のAlberto R. Gonzales(ヒスパニック)の重用

(3) 2つの公用語

公的機関の対応

TV、電化製品マニュアル

自治体アメリカ人管理職へのスペイン語教育

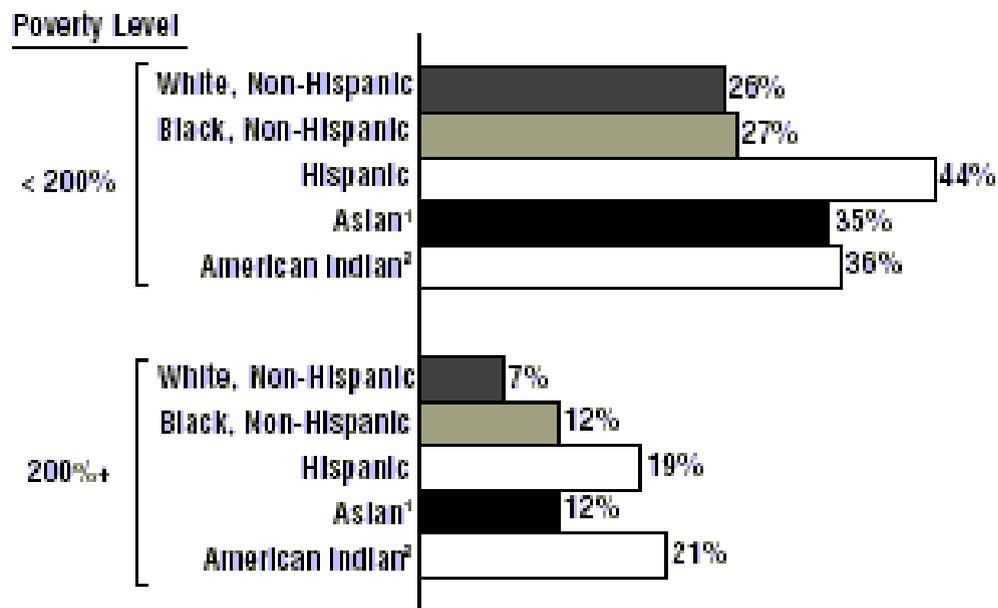
(ゴミ収集、建設現場、医療関係部門等)

Community Collegeの活用

スペイン語の公用語化 ↔ 社会的コスト
cf. マレーシア

(4) 医療保険

Uninsured Rates Among Racial/Ethnic and Income Groups, 2000



¹Asian group includes Pacific Islanders

²American Indian group includes Aleutian Eskimos